

令和3年11月23日(祝)10:00～12:00

ONE LOVE オンライン里親会「第一回セミナー講演会」

子どもの声からはじめよう

—里親家庭経験者の声と子どもアドボカシー—

千葉市立星久喜中学校 生実分教室 教諭
一般社団法人 子どもの声からはじめよう代表理事
内閣官房こども政策の推進に係る有識者会議構成員

川瀬信一









里親さんがいい？

それとも

施設がいい？













里親さんがいい？

それとも

施設がいい？

意見聴取から始まるソーシャルワーク

→里親不調の経験を建設的に振り返る

里親家庭や施設等を離れた若者の現状と声 — 全国調査から

里親家庭や施設等を離れた若者の現状と声

厚生労働省「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」

- 目的 全国規模で、施設や里親家庭で生活した人の生活状況や生活上の課題、支援ニーズを把握・整理する
- 対象 中学校を卒業後、2015年4月から2020年3月の間に、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、里親家庭、ファミリーホーム、自立援助ホームをはなれた人（20,690人）
- 期間 2020年11月30日～2021年1月31日
- 回答 対象者20,690人 配布7,385人 回答2980人(対象者の14.4%)

里親家庭経験者・・・・・・・・ 203人

ファミリーホーム経験者・・ 63人

266人

里親家庭や施設等を離れた若者の現状と声

**自由記述「これまでに受けたサポート・サービスについて
特によかったことや、今後改善したらよいこと」
「国・自治体・施設・里親等に伝えたいこと」**

【肯定的な経験や意見】

- (親と離れることができた)
- (里親がしてくれたこと)
- (里親とのつながりの継続性)

【課題、提案や要望】

- (普及・啓発、早期の情報提供)
- (虐待などへのケア、心理教育)
- (生活スキルの獲得)
- (原家族とのつながり)
- (18歳までの一時的な家族)
- (ケアを離れたあとの困難)
- (相談できる人、場所)
- (児童相談所への要望)
- (里親制度への要望)
- (里親家庭の問題点)
- (進学者への経済的な支援)
- (里親への手当)

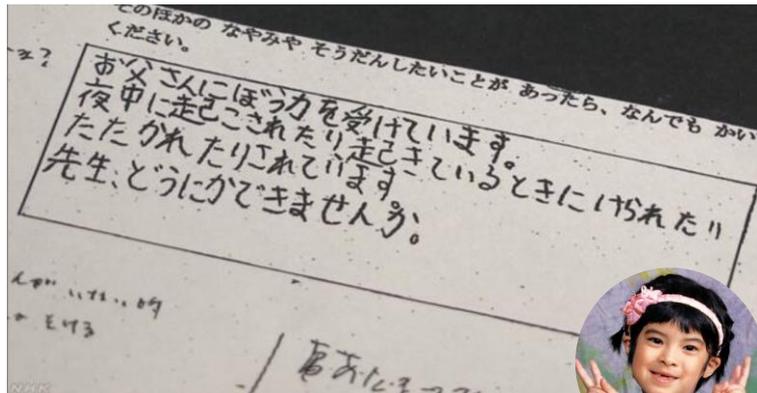
子どもの声を尊重するために
—子どもアドボカシー—

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

届かなかった声、救えなかった命。

野田小4女児虐待事件(2019年)

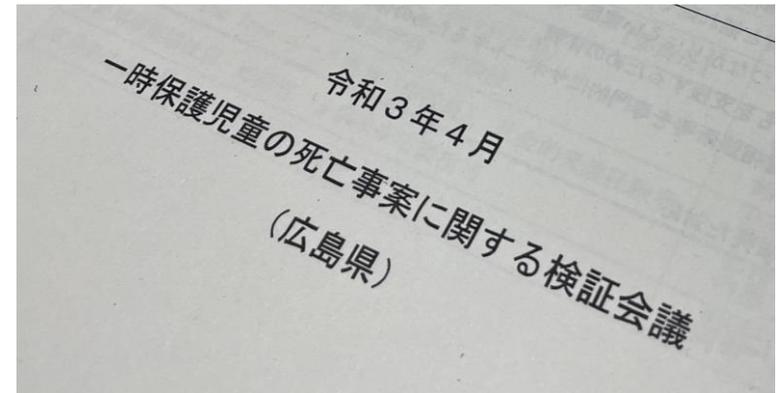
- ・学校で行われた「いじめに関するアンケート」で、父親から虐待を受けていることを告白。
- ・保護された児童相談所では「**お父さんが怖いから家に帰りたくない**」と伝える。
- ・親族方へ移った2か月後、父親が家に連れ返る。その後虐待がエスカレートし、亡くなった。



2019年2月5日朝日新聞デジタル版より

広島保護児童自死事案(2020年)

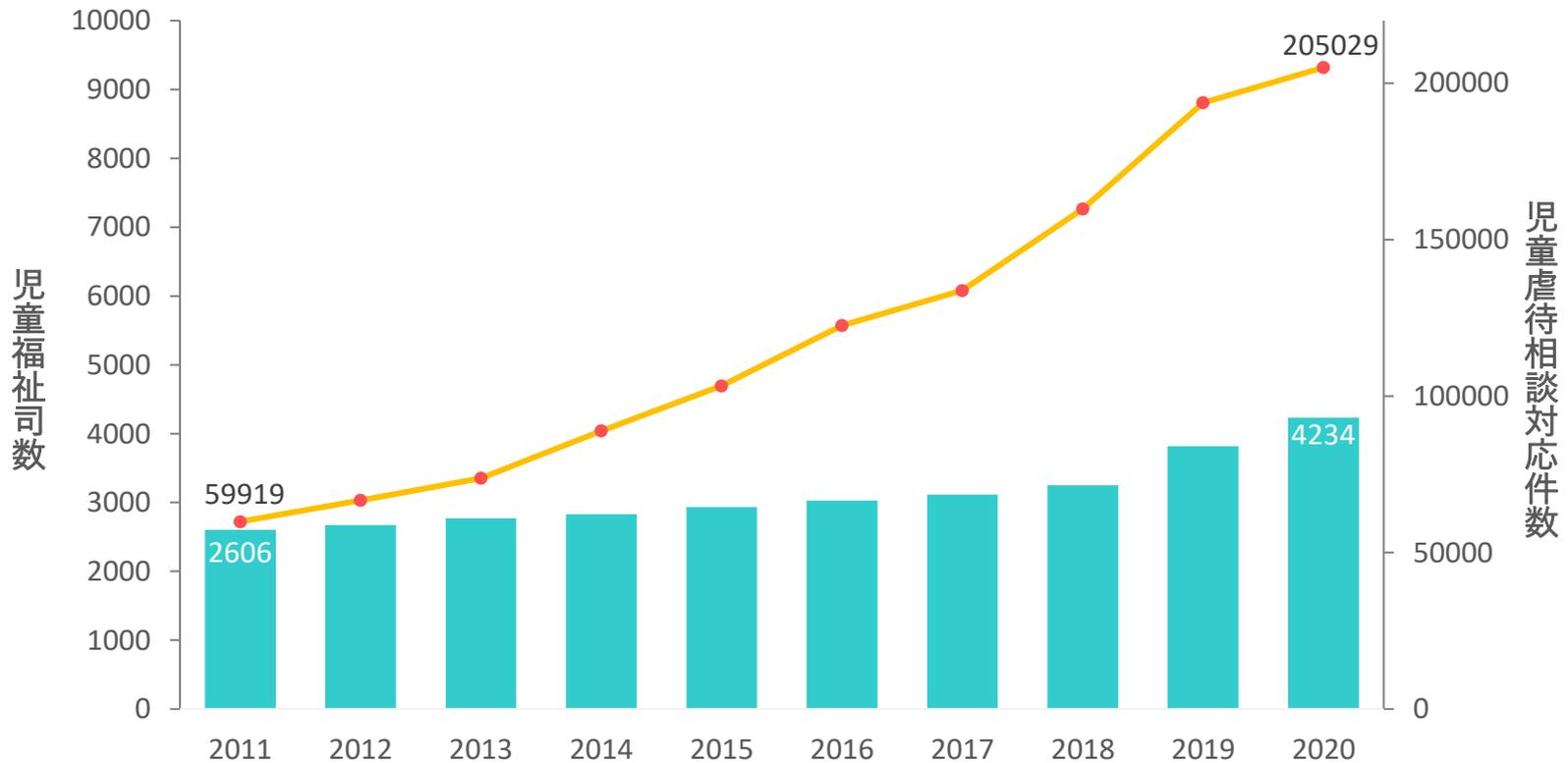
- ・「**母と離れたくない**」と訴えながら、一時保護により母と分離された生活を余儀なくされた。
- ・保護されてから亡くなるまでの約半年間、母親との面会を繰り返し希望していた。しかし、事実上面会は制限されていた。
- ・一時保護委託先の児童養護施設で亡くなった。



広島県「児童死亡事案に関する検証報告書」

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

増える虐待対応、追いつかぬ体制整備。



厚生労働省「児童相談所関連データ」より

児童福祉司 1 人あたりの対応件数が増加 (48.4/人)

子ども一人ひとりの声を丁寧に聴くことは困難

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

なぜ声を上げることは難しいのか。

親が離婚していて、それ以前の過去のことを、教えてもらえない。

担当の児童福祉司に意見を聴かれたことはほとんどない。毎年人が変わる。

里親のことを相談したら、出ていけと言われるのではないか。相談しにくい。

親のことを相談したら、親に伝わり怒鳴られた。それから相談していない。

いじめのアンケートに嫌だったことを書いた。けれど、何も変わらなかった。

職員は他の子の対応で忙しい。迷惑をかけないように意見はなるべく言わない。



厚生労働省 (2021)
子どもの権利擁護に関するワーキングチーム「とりまとめ」

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

感情や思考が抑圧された経験は、その後に深刻な影響を与える。

- ・ 家族との関係回復や将来の夢を「あきらめた」経験の深刻さ。
- ・ 直面している困難が理解されないことによる孤立感・孤独感。
- ・ 自分が悪いと思いつけてきた。だから「助けて」と言えない。

自分の意に反して
施設や里親家庭での
生活を強いられた

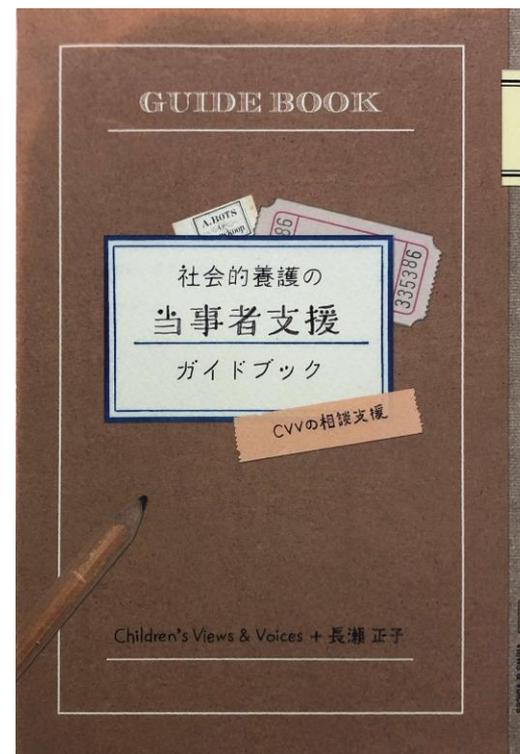
相談したけれど
何も変わらなかった

自分の人生なのに
自分で決められない



子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

声をあげる＝心のドアを開くこと



Children's Views & Voices
「社会的養護の当事者支援ガイドブック」

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

アドボカシー＝声を上げること

英語の“advocacy”とは、ラテン語の“voco”に由来する言葉である。

“voco”とは、英語で“to call”のことであり、

「声を上げる」 という意味である。

西尾(2000)「社会福祉実践とアドボカシーー利用者の権利擁護のために」

アドボカシーを担うアドボケイト＝子どもの声そのもの

子どもアドボカシーは独自のサービスであり、

他のどんな子どもと大人の関係ともなっている。

アドボケイトは**子どもの声**である。



(Department of health=2009)

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

子どもアドボカシーの6原則

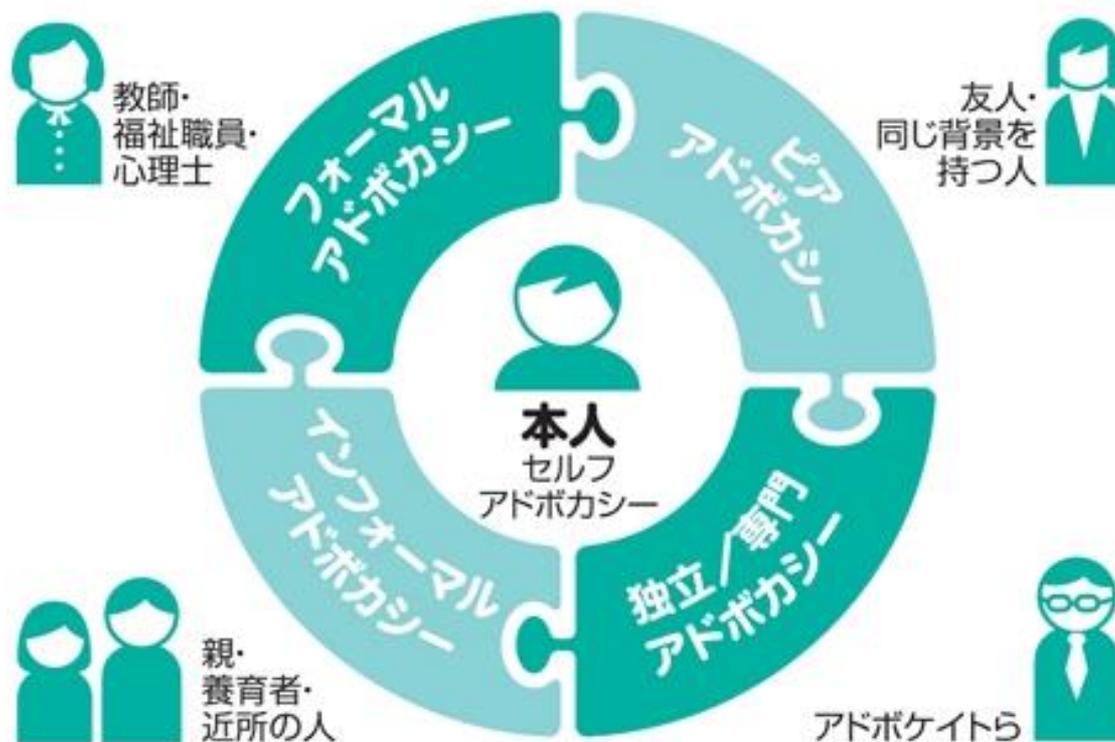


子ども情報研究センター(2018)

『「都道府県児童福祉審議会を活用した子どもの権利擁護の仕組み」調査研究報告書』

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

アドボカシーはジグソーパズル



それぞれの立場が補完し合い子どもの声を聴くことが大切

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

なぜ第三者が声を聴くことが必要なのか



専門職として、また養育者として、時に子どもの気持ちに反することをしないといけないことがある。

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

なぜ第三者が声を聴くことが必要なのか



利害関係が強いほど、本音は伝えにくい。
相手を傷付けたり、関係をぎくしゃくさせたくないからだ。

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

どちらがちひろさんの本当の声なのでしょうか

ちひろさんは、朝、
担任の先生に言いました。

ちひろさんは、放課後
保健室の先生に言いました。



子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

どちらも、ちひろさんの本当の声。

たたかれるのは痛い。
最近、どんどん強く
たたかれるように。
もうがまんできない

たたかれるから
おうちには
かえりたくない

やっぱり
おうちに
かえりたい

先生や友達は
味方でいてくれる。
きょうだいとも
はなれたくない。



相手や環境によって、伝えたいことが変化することもある。

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

子どもが望むアドボカシー

こんな人に聞いてほしい！

怒らない人

優しい人

同性がいい

同じような環境で育った人

最後まで話を聴いてくれる

秘密を守ってくれる人

ゆっくり聴いてくれる人

明るすぎず暗すぎない人

こんな人には言いたくない

怖そうな人

「〇〇したら」という人

施設のことを知らない人

自分の意見を押し付ける人

話したことを人に言う人

何度も聞き返す人

意見が変わる人

ころころ代わる人

Children's Views & Voices 「子どもの声聴かせてワークショップ」

子どものパートナーになるために大切なことは、
子ども自身が教えてくれている。

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

イギリスにおけるアドボカシー実践

1970年代 児童虐待死事件をきっかけに、民間団体が子どもアドボカシー活動を開始

2002年 児童法(26条A)アドボカシーサービスをすべての自治体に設置することが義務付けられる。
里親家庭等にアドボケイトが定期的に訪問

日本における動向

2016年 児童福祉法改正→権利の主体としての子ども

2019年 児童福祉法改正→施行後2年をめどに児童の意見が尊重される仕組みの構築を検討（附則第7条の4）

厚生労働省「子どもの権利擁護に関するWT」

2020年 子どもアドボカシーに関するモデル事業開始

子どもの声からはじめよう

Vision 子どもの声が尊重される社会を実現する

2018



カナダ・オンタリオ州の
アドボカシー実践に学ぶ
学習会+政策提言発表会
(全8回、延べ200人参加)

2019



イギリスJane Dalrymple氏招聘
シンポジウム(約160名参加)
アドボケイト養成講座
(前後期、延べ90名参加)

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

いつ子どもの声を聴くのか



それぞれのタイミングで、声を上げることが必要。

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

2021年度の取り組み

- ・ 令和3年6月から児童相談所一時保護所における訪問アドボカシーの試行実践を開始。
- ・ 毎週土曜日の9:30～11:30（2時間）
- ・ アドボケイト4～7名が男子ユニット・女子ユニット・幼児ユニット分園に分かれて活動。延べ20回、97人が訪問。
- ・ 新規入所者を対象としたアドボカシーの説明会、子どもの権利を知り考えるワークショップを月2回、定期的を実施。
- ・ 遊びを通じて信頼関係を築き、子どもからのリクエストにより話を聴く。申し出があれば、一時保護所の職員、児童福祉司・心理司、家族等への意見表明をサポートする。
- ・ 一時保護所の生活に関すること、今後の生活に関すること、学校や学習に関することなどについて



アドボカシーの全体説明（月2回）
新規入所者を対象にアドボカシーの説明
子どもの権利を学ぶワークショップ実施

ラポール形成
スポーツ、遊びなど、
体験の共有を通じて信頼関係を築く

ポスターの掲示
・アドボカシーについて
・訪問日時
・訪問メンバー写真・プロフィール

アドボカシーの説明（個別）
新規入所者に個別で説明

おはなしポスト
アドボカイトと話したい人は
チケットを投函すると
面談を予約することができる

個室対応になっている
子どもへの声かけ

面談結果の確認

子どもがアドボカイトに気持ちや考えを話す



57件



意見表明の申し出 なし

次回以降も声かけを継続

19件

あり

虐待等の開示
権利侵害事案

0件

「伝えたいこと確認書」や手紙で、伝えたいことを本人が書く（またはアドボカイトが代筆する）

①子どもが自分で伝える

②アドボカイトと一緒に伝える

③アドボカイトが代わりに伝える

一時保護所の生活やルール
人間関係や職員の対応など

ケースワークに関することや
親やきょうだいとの通信など

一時保護所職員・係長・課長

アドボカシー担当職員



面談

児童福祉司・児童心理司

家族など

学校など

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

○成果と課題

対話が安心感につながっている

意見を言ってもいいことを実感

独立した立場が理解されている

秘密を守ることに對する信頼感

ケースワークへのはたらきかけ

訪問時間・面談時間が短い

自ら相談できない児童への対応

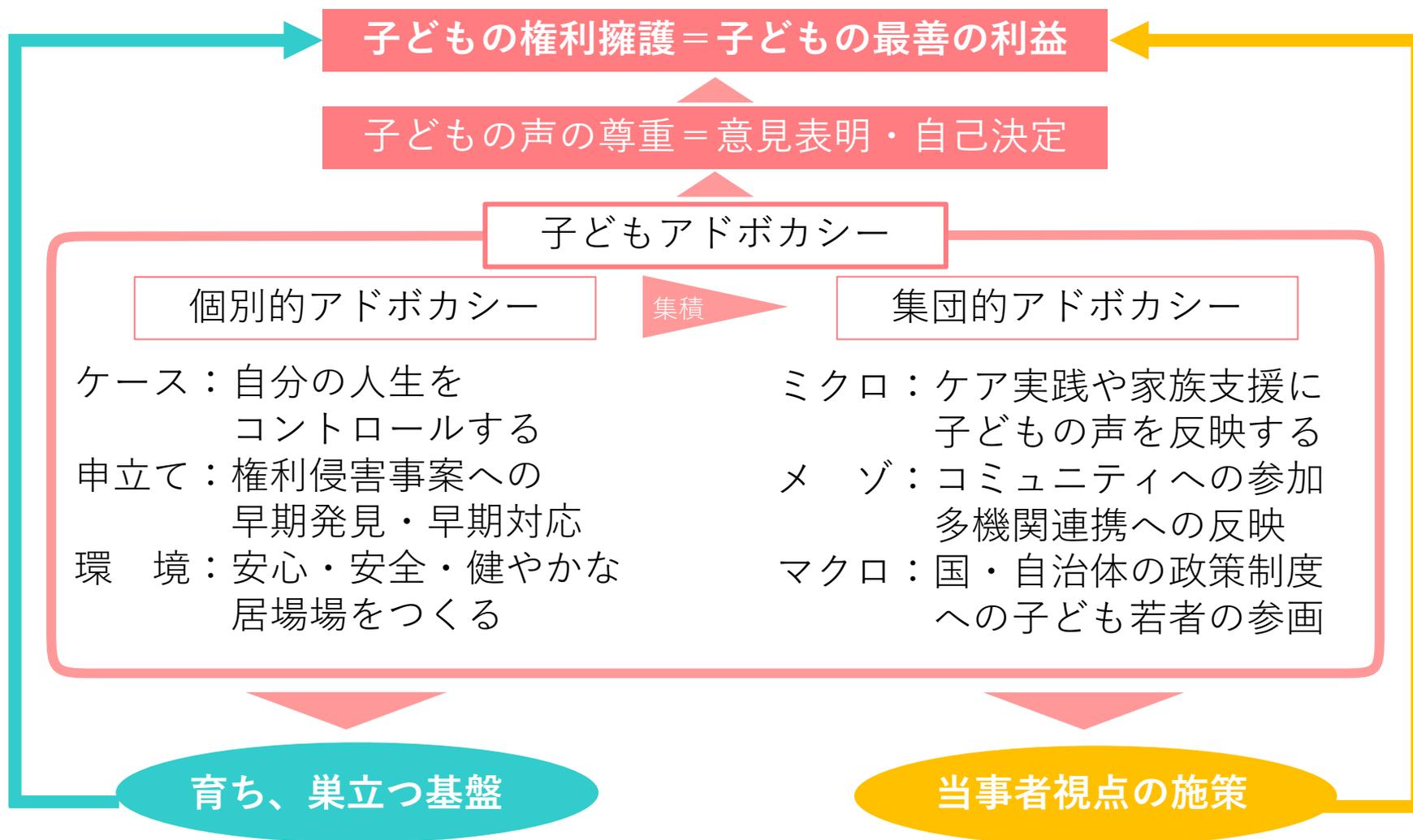
プライバシーに配慮した活動

外国語や手話のニーズへの対応

意見表明後のフォローアップ

子どもの声を尊重するー子どもアドボカシー

子ども権利擁護の始点に子どもの声を



むすびに

よいケアとは何か

相互行為としてのケア—人権アプローチ

ケアをする権利

ケアをすることを
強制されない権利



ケアを受ける権利

ケアを受けることを
強制されない権利

(参考) 上野千鶴子(2011)『ケアの社会学—当事者主権の福祉社会へ』

よい支援を行うためには、まず支援者自身が権利に目覚め、権利意識によってエンパワメントされている必要がある。自分も相手も大切にすることでパートナーシップが築かれる。

私は全てを自分で決断し、他の人にもその権利を認めている。